

「やさしい日本語」から考える多文化共生社会 ——「やさしい日本語」のその先へ——

0. 今日の流れ

① 「やさしい日本語」の考え方

- ・多文化社会日本の現状
- ・「やさしい日本語」の考え方

② 「やさしい日本語」が必要なわけ

- ・「やさしい日本語」の役割
- ・なぜ「やさしい日本語」が必要か

③ 多文化共生社会のコミュニケーション

- ・日本語のユニバーサルデザイン
- ・「やさしい日本語」がいない社会

I. 「やさしい日本語」の考え方

1. 多文化社会日本の現状

令和 5 年末現在における中長期在留者数は 312 万 9, 774 人、特別永住者数は、28 万 1, 218 人で、これらを合わせた在留外国人数は、341 万 992 人となり、前年末（307 万 5, 213 人）に比べ、33 万 5, 779 人（10.9%）増加しました。

（出入国在留管理庁 https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00040.html）

気づけば「移民大国」

18 年後には 600 万人以上の外国人労働者

アジア各国が日本に移民を送り出す潜在的可能性の推計

（国立社会保障・人口問題研究所 是川タ・国際関係部長）

→18 年後の 2040 年 600 万人以上の外国人労働者が日本に定着する可能性がある

この頃には、日本の労働力人口は 15 年と比べて 778 万人減るとされる。

2040 年に 受け入れる日本側がどれほど外国からの労働力を必要とするかの推計（JICA）

日本の経済成長率 年 1・24%（政府目標）の場合 → 600 万人台の外国人労働力が必要
成長率 年 1%の場合 → 約 170 万人（現状と同じ）

「その労働力に熱い視線、「移民国家」の現実 なぜ日本を目指すのか」 朝日新聞デジタル

真鍋弘樹 2022 年 6 月 24 日

（<https://digital.asahi.com/articles/ASQ6P441IQ5WUPQJ00F.html?pn=5&unlock=1#continuehere>）

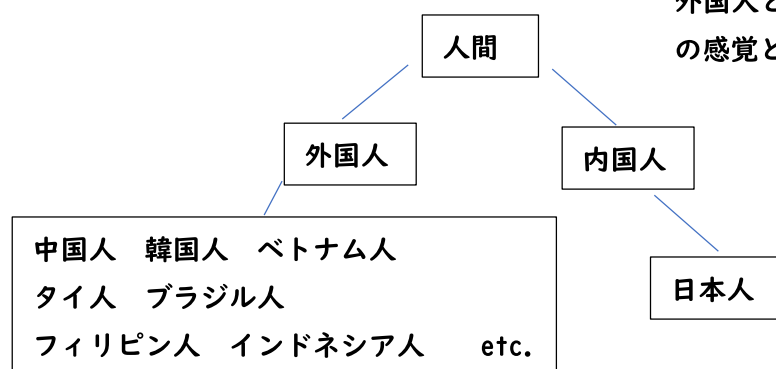
大分県の現状 在留外国人数 17, 587 人

マックス・フリッシュ（スイス 1965 年）

「我々は労働力と呼んだが、やってきたのは人間だった」

（<http://radio-critique.cocolog-nifty.com/blog/2021/03/post-e80a8d.html#%C3%9Cberfremdung>）

「外国人」ということばは必要か



外国人と日本人という2項対立は鎖国時代の感覚と変わらないのでは？

2. 「やさしい日本語」の考え方

①減災のための「やさしい日本語」

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。これは、地震などの災害が起こったときに有効なことばです。

95年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本に来ていた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受けとることができない人もいました。そこで彼らが災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」なのです。

弘前大学 佐藤和之研究室ホームページより

(このページは現在閉鎖されています)

減災のためのやさしい日本語(やさしくない例)

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。
 大きな地震のあとには必ず余震があります。
 引き続き厳重に注意してください。
 皆さんおちついて行動をお願いします。
 ガス臭いようなところがありましたらマッチを擦ったり、
 照明のスイッチをつけたり、消したり、ということはいしないでください。
 弘前市は断水や停電となり、市民の生活は麻痺しています。
 中心部の雑居ビルが完全に崩れ落ちています。

減災のためのやさしい日本語(やさしい例)

きょう あさ じ ふん どうほくちほう おお じしん
 今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が ありました。
 おお じしん よしん じしん
 大きい 地震の あとには 余震<あとからくる地震>が あります。
 き
 気をつけて ください。
 ひ つか
 火を 使わないで ください。
 か じ き
 火事に 気をつけて ください。
 ひろさきし みず でんき つか
 弘前市は 水と 電気が 使えません。
 じしん たお たてもの き
 地震で 倒れた 建物に 気をつけて ください。

「やさしい日本語」の「やさしい」はひらがなです

「易しさ」と「優しさ」

優しい気持ちで易しい日本語を使うことが「やさしい日本語」

相手が理解できるかどうかを考えて、伝わりやすいことばを使う

②「やさしい日本語」の基本

- ・短く言う
- ・はっきり最後まで言う
- ・敬語を使わない。ですますを使う

やさしい日本語(にほんご)には、ゆめが あります(やさしい日本語ツーリズム研究会)より

(<https://www.youtube.com/watch?v=G--ggrh7USE>)

・「土足禁止」を「やさしい日本語」にすると

?靴を脱いでください。

?くつをぬいでください。

?くつを ぬいで ください。

→ この議論は必要か?

③何を「やさしくする」のか 日本語の伝わりにくさ—「空気」は読めるもの?

たとえば職場で 上司が「今日中に必要な資料の作成が間に合いそうにない」と言ったとき
部下はどのように答えるか

APU 学生の経験談 (A: 国内学生) アルバイトから深夜に帰宅 (B: 国際生の友だち) からの Line

B: 「今から映画観賞会するんだけど来ない?」

A: 「今日、バイトで疲れてるんだ」

B: 「そう、たいへんだね」

数分後

B: 「で、いつ来るの?」

A: 「!!!」

→ 状況を提示して「あとは察してね」とか「自分で判断してね」というのが日本的コミュニケーション

やさしい日本語とは

「やさしい日本語」ということばの知識ではなく 自分の言葉を調整する能力

日本語話者による 日本語の学び直し

→ 「外国人」だけが必要なわけではない

Ⅱ. 「やさしい日本語」が必要なわけ

Ⅰ. 「やさしい日本語」の役割

災害に備える「やさしい日本語」

→ 日ごろから声をかけあう「優しさ」

コミュニティにおけるコミュニケーション・ツールとしての「やさしい日本語」

「にげて」の意味がわかってもし逃げられない

どこに逃げたらいい？

私は逃げる必要があるの？

↓

緊急時の行動を理解している（どこに逃げたらいいか、どんなとき逃げるべきか）

いっしょに避難する近隣との関係（顔の見えるご近所さん）

↓

いざというとき逃げることができる

そうした日常の関係を作るための「やさしい日本語」

2. なぜ「やさしい日本語」が必要か

① 「やさしい日本語」への批判

「やさしい日本語」批判① 美しい日本語、豊かな日本語、日本の文化を守れ

- ・「やさしい日本語」は変な日本語
- ・「外国人」のために日本語を変える必要はない

「やさしい日本語」への批判② 言語保障と「やさしい日本語」

言語権をめぐる問題

- ・「外国人」に日本語を強制することは「言語権」の侵害につながる

言語権

自分の言語を使う権利

→ 「やさしい日本語」の強制による権利の侵害

自分の居住地の言語を学ぶ権利

→ 言語保障の一助（プラス面）

「外国人」は「やさしい日本語」でいい（マイナス面）

「やさしい日本語」への批判③ 日本語学習者の視点から

- ・日本語学習者は「やさしい日本語」を勉強すればいいというバイアス

→ 社会の周縁に追いやられる感覚

「やさしい日本語」は中間言語、目標言語ではない

※ 中間言語：学習の途中の段階 目標言語：学習の目標とする言語

②「やさしい日本語」が必要なのは

- ・すべての日本語話者

多様な背景をもつ人々が集まって、同じ「市民」として地域のコミュニティを形成するために、「日本語」がどうあるべきかを考えるためのツール

③コミュニティデザインという考え方

コミュニティの力が衰退しつつある社会や地域のなかで、人と人のつながり方やその仕組みをデザインすること。施設や空間を具体的につくるのではなく、ワークショップやイベントといった「かたち」のないソフト面をデザインの対象とすることで、コミュニティを活性化させる。

出典: artscape 市川紘司 <https://artscape.jp/artword/index.php/コミュニティデザイン>

コミュニティデザインの観点で

10年後、20年後の社会がどのような社会になってほしいか

自分たちで望ましい社会を作るために「やさしい日本語」をどのように役立てたいか

ベトナム出身の日本人、パキスタン出身の日本人

「日本人だから日本語が第一言語」とはいえない

→ 多文化共生社会のコミュニケーション

Ⅲ. 多文化共生社会のコミュニケーション

1. 日本語のユニバーサルデザイン

①障害の社会モデル

障害は個人の問題でなく、受け入れる社会の側に問題があるとして起きているとする考え方



障害の個人モデル（医学モデル）

個人の心身の制約に困難の要因があるとする考え方

寓話『障害者の村』（https://co-coco.jp/series/study/socialmodel_hoshika/）

②バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリー 「やさしい日本語」

障がいのある人・高齢者などのために、生活の障害となる物理的な障壁（バリア）をなくすこと

ユニバーサルデザイン 伝えることば

個人差や言語の違いに配慮し、すべての人に使いやすいものを設計の最初から考えて作ること

「やさしい日本語」は「日本人」が日本語を見直すためのきっかけ

→ 「国語教育」を見直す必要

「やさしい日本語」から「論理的な伝わりやすい日本語」へ（日本語のユニバーサルデザイン化）

日本語がユニバーサルデザインになれば、「やさしい日本語」は必要なくなる

2. 「やさしい日本語」がいない社会

①「日本語教育の参照枠」における言語教育観の柱

1 日本語学習者を社会的存在として捉える

学習者は、単に「言語を学ぶ者」ではなく、「新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、よりよい人生を歩もうとする社会的存在」である。言語の習得は、それ自体が目的ではなく、より深く社会に参加し、より多くの場面で自分らしさを発揮できるようになるための手段である。

2 言語を使って「できること」に注目する

社会の中で日本語学習者が自身の言語能力をより生かしていくために、言語知識を持っていることよりも、その知識を使って何ができるかに注目する。

3 多様な日本語使用を尊重する

各人にとって必要な言語活動が何か、その活動をどの程度遂行できることが必要か等、目標設定を個別に行うことを重視する。母語話者が使用する日本語の在り方を必ずしも学ぶべき規範、最終的なゴールとはしない。

（出典：日本語教育の参照枠報告 文化審議会国語分科会 令和3年10月12日）

②日本語のユニバーサルデザイン化

どんな背景をもつ人にも理解できることばを使う社会を作る → 多文化共生社会

「ことば」は変わるもの

社会が変わり、使う人が変われば、ことばは変わる 変わることを恐れる必要はない

地球市民 グローバル・シチズンシップ

違いを乗り越え、みんなが地球社会の一員であり、そこに参画する責任を持つ市民だという意識

「多文化共生」は「他文化強制」ではなくて

いろいろな文化背景をもった人が共に生きる社会を作ること だれもがみんな日本市民

参考：「やさしい日本語」紹介ビデオ

大分県 まなびの広場 おおいた <http://manabi.oita-ed.jp/ichioshi>

やさしい日本語（にほんご）には、ゆめが あります（やさしい日本語ツーリズム研究会）

<https://www.youtube.com/watch?v=G--ggrh7USE>

やさしい日本語には夢があります（留学生編）<https://www.youtube.com/watch?v=6w78Uy2i7go>